

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

岩国市教育委員会

1 調査の目的

(1)目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2)調査期日 令和4年4月19日(火)

(3)調査を実施した学校・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	岩国市立小学校 28校	1034人
中学校第3学年	岩国市立中学校 14校	928人

※岩国市立小瀬小学校、岩国市立柱野小学校、岩国市立由西小学校は、第6学年に在籍児童がないため、実施なし。

(4)調査の内容

①教科に関する調査 【小学校：国語14問 算数：16問 理科：17問】

【中学校：国語14問 数学：14問 理科：21問】

- ・基礎的な知識や技能と活用力を一体的に問う問題
- ・出題の特徴
 - (小) プログラミングを使った問題、データ活用に関する問題の出題
 - (中) 文書作成ソフトのコメント機能を扱った出題

②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査 【小学校：69項目 中学校：69項目】

イ 学校に対する調査 【小学校：82項目 中学校：80項目】

※学校に対する調査には、上記82項目以外に「新型コロナウイルス感染症の影響」に関する質問23項目が設定されていた。

2 結果の概要

(1)教科に関する結果

①平均正答率

○小学校(6年生)

	国語	算数	理科
岩国市	64	61	62
全国	65.6	63.2	63.3
山口県	65	63	64

○中学校(3年生)

	国語	数学	理科
岩国市	68	50	49
全国	69.0	51.4	49.3
山口県	70	52	49

②全体の結果

○全国平均との比較(平均正答率)

小学校では、国語、算数、理科とも、やや下回っている。

中学校では、国語、数学とも、やや下回っている。理科は同程度である。

③教科ごとの結果

ア 小学校国語

【相当数の児童ができています】

- 話し言葉と書き言葉との違いを理解する
- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

【課題のある点】

- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける
- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる
- 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える

イ 小学校算数

【相当数の児童ができています】

- 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる
- 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる
- 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

【課題のある点】

- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる

ウ 小学校理科

【相当数の児童ができています点】

- 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる
- 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる
- 昆虫の体のつくりを理解している

【課題のある点】

- 日光は直進することを理解している
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる
- 自然の事物・現象から得た情報を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

エ 中学校国語

【相当数の生徒ができています点】

- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する
- 事象や行為、心情を表す語句について理解する
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する

【課題のある点】

- 行書の特徴を理解する
- 表現の技法について理解する
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

オ 中学校数学

【相当数の生徒ができています点】

- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している
- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している

【課題のある点】

- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる
- 一次関数の変化の割合の意味を理解している
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明することができる

カ 中学校理科

【相当数の生徒ができています点】

- モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できる
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子モデルで表した図を基に化学反応式で表すことができる
- 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できる

【課題のある点】

- 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる
- 飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できる
- 化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できる

(2)生活習慣や学習環境等に関する結果

①児童生徒に対する調査

【望ましい状況】

ア 子どもたちの生活習慣

- 「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に寝る・起きる」という規則正しい生活を送っている児童生徒の割合が高い。この結果に比例し、規則正しい生活を送っている児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も高くなっている。

イ 子どもたちの意識

- 「自分にはよいところがあると思う」という自己肯定感、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」という責任感をもつ児童生徒の割合は高い。また、「人が困っているときに進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒の割合も高く、規範意識が身に付いているともいえる。

ウ 学習

- 「国語や算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した児童生徒の割合が高い。また、道徳の授業では、「自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 小学校では、「授業中にICT機器を活用し、友達と意見を交換したり、自分の考えをまとめ、発表したりしている」と回答した児童の割合が、全国平均、県平均を上回っている。

エ 地域との関わり

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童の割合は、前回調査より下回っているが、小学校では、「地域をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した児童の割合が前回調査よりも高くなっている。

【課題とみられる状況】

ア 家庭での学習習慣

- テレビゲーム、動画視聴を行う時間が長い児童生徒の割合が全国平均、県平均と比べて高く、それに伴って学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間や家で自ら計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合が低くなっている。また、これらの結果に比例し、1日当たりのテレビゲーム、動画視聴の時間が長いほど、正答率も低くなっている。

イ 社会的事象への関心

- 「新聞をほとんど読まない、または全く読まない」と回答した児童生徒の割合は、前回調査より増加している。この結果に比例し、新聞をほとんど読まない、または全く読まない児童生徒の全国学力・学習状況調査の正答率も低くなっている。

ウ 地域との関わり

- 中学校では、「地域をよりよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した生徒の割合が全国平均、県平均と比べ、共に前回調査よりも低くなっている。

②学校に対する調査

【望ましい状況】

ア 学習指導

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した学校の割合は、全国平均と比べて高い。また、「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動を取り入れた」と回答した学校の割合も全国平均を大きく上回っている。

イ 小中一貫教育

- 中学校区で教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定、授業研究、全国学力・学習状況調査の成果と課題等の合同研修を行っている割合は全国平均、県平均と比べて高い。

ウ 家庭や地域との連携

- 家庭や地域の人に教育課程の趣旨について共有を図る取組を行ったり、コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加したりする等、保護者や地域の人との協働による活動を行っている割合は、全国平均と比べて高い。

【課題とみられる状況】

ア 学習指導

- 「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表する場面でICT機器をどの程度使用しているか」「児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器をどの程度使用しているか」に対する回答において、学校の認識と、児童生徒の認識が一致するような工夫をしていくことが課題である。

3 今後の取組

(1)年2回の検証改善サイクルの確立

①結果の把握と分析に基づいた指導の工夫改善

- ア 成果からみたよい取組の価値付け
- イ 誤答分析による児童生徒の思考の分析と指導方法の改善

②全学年、全教科等を対象とした課題改善に向けた計画的な取組

- ア 学力向上プランへの反映
- イ 学校全体での取組の焦点化
- ウ 個に応じた学習指導の改善・充実等

(2)授業改善

①学力向上推進リーダー、英語教育推進教員による授業公開後のミニ研修会の実施

- ア 「ICTを活用した【新しい学習様式】」に則った授業の実施
- イ 1人1台タブレット端末の効果的な活用
- ウ 各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる場の設定と実施
- エ 授業の逆算的思考と振り返りの充実

②成果と課題の共有

- ア 学力向上推進リーダー、英語教育推進教員との学力向上会議の開催（各学校における学習状況や授業づくりについての情報交換）
- イ 授業づくりやICT活用の好事例の紹介（学力向上だより・英語推進だより・T e a m s）

③若手教員に向けた自主研修会の開催

- ア 年間5回程度
- イ 外部講師やミドルリーダーの招聘
- ウ T e a m s の活用

(3)地域との連携した取組の推進

①小中一貫教育の更なる推進

- ア 中学校区での目指す子ども像、学校課題等の共有
- イ 合同授業研究会の実施

②学校・地域・家庭の更なる連携

- ア 「学校地域連携カリキュラム」の実践と見直し
- イ 児童生徒の熟議への参加と地域貢献の視点
- ウ 持続可能な取組の模索